



働けよう みんなの人生を豊かにするために

まるがめ

週報

 会員数 59名
欠席者

 出席者47名 欠席者10名 免除会員5名
天野・麻田・和泉享・岸上・松山・中野昌・大山・加内・曾川・高岡
中川-会員

前々回出席率 80.7% (12/2)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

 会長 谷本 順三
幹事 石合 由明
会報委員長 藤井 紀子

お知らせ

1月のプログラム

 6 (No.1)-新年例会
13 (No.2)-会員卓話
20 (No.3)-会員卓話
27 (No.4)-クラブフォーラム

ニコニコBOX:

 よいことがありました
秋山憲夫君 大西信亮君
谷川会員、卓話ありがとうございました
谷本君

<ニコニコ会計累積/ ¥210,000>

がんばるBOX:

 出席できなくて
川原君
なんとなく
齋賀君 後藤君
篠原ハスガバナーのご逝去の報に
接し心からお悔やみ申し上げます
夏見君
善行表彰人数達成しました
福田君

<がんばる会計累積/ ¥94,000>

例会場・事務局

丸亀市塩飽町48-1 丸亀プラザビル5F

■会長挨拶

皆さん今日は、今日の話は「食料」と「農業」についてお話したいと思います。話題のネタは以前紹介させていただいた寺島実郎さんの「時代認識」と言う書籍からです。

現在の日本の食糧自給率は32%、過去1965年には73%でした。他の先進国はどうかと見ますと。現在のアメリカは130%、ヨーロッパ諸国はドイツが95%、フランスが127%、イタリアが60%、イギリスが63%になっています。興味深いのは殆どの国が自給率を上げています。イタリアのみが1965年に88%であったのが63%に減少しています。食料の自給率は非常に大事で国際的な協調が破壊されると、国民の生命に関わる数字です。

皆さんもご存知のように日本の産業構造の中心は戦後、一次産業から二次産業へと移り、現在は第3次産業へと移行しています。農業の就業人口は大きく減少し、就業者も高齢化しています。その結果、耕作放棄地が増加し、その広さは42万ヘクタール、農地の10%になっています。大規模な営農が行う事の困難な香川県では顕著な状況です。私自身も兼業の就農者になっており、自身の管理する農地の活用も真剣に考えなければと思っています。農業も昨今は近代化が進み、IoT化が進みつつあります。最近トラクター等のカタログをインターネットで調べると、GPSを活用した自動運転が可能になっています。このような農業を効率よく進める農機具の進歩や、肥料、農薬の進歩により農業の将来性も少し期待が出来る状況になってきたような気がします。就農者の責任も自分自身少なからずあると思っているので、自身の管理する耕作地を活用する事を考えなければと思う昨今です。

■会長報告

①前年度ガバナーの篠原氏がご逝去されました

■幹事報告

①IMの出欠をお願いします

■委員会報告

①福田社会奉仕委員長より善行表彰のご案内がありました
②3年後地区代表幹事横田会員より報告がありました

■例会事業; 会員卓話; 谷川淳二会員

早速ですが、昨日12月15日は、何の日でしょうか。プログラム委員長の吉田会員のみが答えをお分かりになるかと思いますが、12月15日は「観光バス記念日」です。1925年に東京乗合自動車により日本初の定期観光バス「ユーランバス」が運行したことに由来しています。その行程は、皇居～銀座～上野でした。1940年、戦争が始まるのと同時期に運行が終了しました。その後、事業継承として新日本観光(現ハトバス)に譲渡され現在に至っております。自己紹介という形でお話すると、平成7年に琴平参宮電鉄(コトサンバス)に入社し、24年間、観光事業としての貸切バスの営業に従事していました。令和元年に琴讃観光に籍を移し、丸亀ロータリークラブに入会しました。初めての会員卓話(バス業界について)、今年に入って、コロナ禍における旅行業界の現状、今回は観光バス記念日についてと、非常にコアな内容ばかりになっています。観光バスに携わる期間が長かった中で、一般的には、バスの日が9月20日です。1903年9月20日に、京都府の二井商店で運航開始したのが日本で初めてのバス事業者とされています。事業形態としては、乗合バス、路線バスです。一般的に、9月20日が全国で「バスの日」として認知されていて、全国各地でイベントが数多く開催されています。香川県下においても、2010年より2年に1回「かがわバスまつり」が開催されていて、数多くの方に来場いただいています。第1回目の「かがわバスまつり」では実行委員長を仰せつかったとき、約1万人の方に来場いただきました。



2021.12.16

Vol.59

No14

(2850)

ひと言「バス」といっても、大きく2つに分かれます。乗合バス、貸切バスの2つです。乗合バスの中には、路線バス(地域エリア限定)、高速バス(都市間をつなぐ中・長距離運行)、空港リムジンバス(県内主要地より空港へのアクセス)が含まれます。貸切バスには、観光バスがあります。旅行目的、輸送目的によって異なりますが、基本的には全てオーダーです。車種のタイプは3つあります。特殊車両なんかもあります。

バス業界の現状・課題についてお話いたします。乗合バス(全国)で、20年前に比べて、事業者数が515社から2300社に増加しました。車両数はほぼ同数です。20年前の規制緩和の影響を受けて新規参入業者が増えたことによります。特に高速バス市場においてです。一方、ローカルエリアを主に路線バスの縮小・廃線といった交通インフラも再整備されました。貸切バスは20年前と比べて、3900社から4000社に増えていますが、ほぼ同数です。車両数は45000台から50000台に増えていますが、ほぼ変わりません。格安バスツアー・海外インバウンドを下支えに、バス業界へは更なる新規参入事業者が増す傾向になっています。

課題に話を移しましょう。第1の課題は、運転者の不足です。高齢化が進み、乗務規制がかり、そうすると受注規制が出てきて、減収・減車につながります。時期によってはバスの需要が豊かになったり、そうでなくなったりします。参考までに、現在、香川県下において、大型二種免許保有者の60パーセント近くが60歳以上です。自動運転の推進すら答えが出てきていません。

第2の課題は、地球環境対策です。政府がカーボンニュートラル、脱炭素の実現を目指すという政府発表に対して、バス業界は、公共交通機関利用促進へ取り組んでいます。コミュニティバスの導入促進、GPSによるバスロケーションシステム・ICカードの導入、時代に即した電動車の導入促進があります。バスは公共交通機関としては一度に多くの人を運ぶことができるので、輸送あたりのCO2排出量が少ない輸送手段です。

最後に、GO TOトラベルキャンペーンについて紹介いたします。昨年実施したときからは、割引率、割引上限額、地域共通クーポンが変わりました。